

参加者アンケート調査結果

「障害福祉と医療の連携に関する研究成果 報告会」（令和 8 年 2 月 21 日）の開催後、参加者を対象に、報告会に関する意見やマニュアル案およびフォーマット案への意見等をたずねるアンケート調査を実施した。

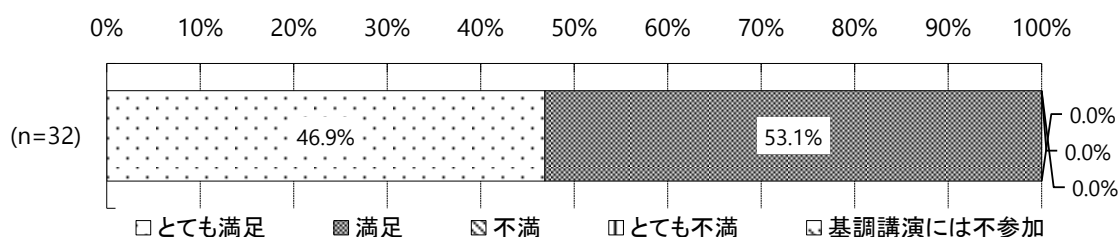
図表 1 実施概要

調査対象	「障害福祉と医療の連携に関する研究成果 報告会」の参加者
調査期間	令和 8 年 2 月 21 日～ 3 月 16 日
調査方法	WEB アンケートによる実施
回収数	32 件

1) 基調講演「障害福祉分野における合理的配慮の進展と医療への期待」の満足度

「満足」の割合が最も高く 53.1%である。次いで、「とても満足（46.9%）」である。

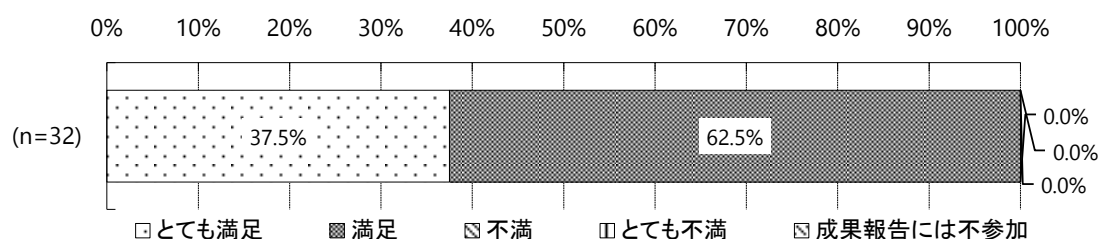
図表 2 基調講演「障害福祉分野における合理的配慮の進展と医療への期待」の満足度



2) 成果報告の満足度

「満足」の割合が最も高く 62.5%である。次いで、「とても満足（37.5%）」である。

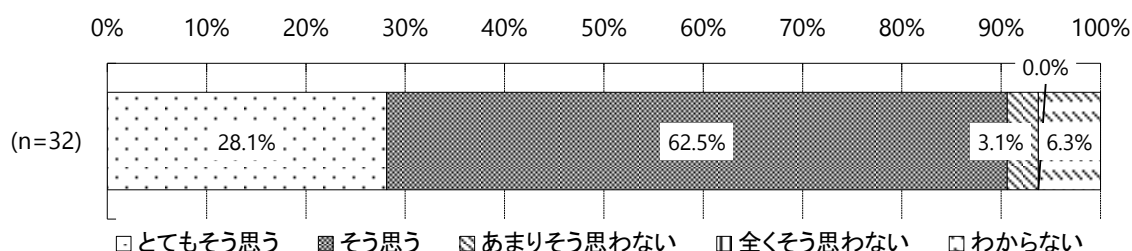
図表 3 成果報告の満足度



3) 成果報告で紹介したマニュアル（案）は、役に立ちそうな内容だと思うか

「そう思う」の割合が最も高く 62.5%である。次いで、「とてもそう思う（28.1%）」、「わからない（6.3%）」である。

図表 4 成果報告で紹介したマニュアル（案）は、役に立ちそうな内容だと思うか



4) マニュアル（案）について追加・修正した方がよいこと

マニュアル（案）について追加・修正した方がよいことを自由記述式で尋ねた。主な回答は以下のとおり。

図表 5 マニュアル（案）について追加・修正した方がよいこと（自由記述式）

（見やすさ・わかりやすさの工夫等）

- ・ 読むのが大変だとスタッフが読んでくれないことが多いです。
- ・ 貴重な成果だと思いますが、一方で、実際に使われた結果等を元に繰り返し検討が必要となると思います。動画もあるといいと思います。見やすさの改善も必要だと思います。
- ・ マニュアルは、しっかりと根拠のある内容で、役に立つ可能性が大いにあると思います。一方で、現状では文字中心であり、感覚的に理解しづらく、医療者に読んでもらえるかは未知数だと感じました。その意味で、Q3 は「わからない」と回答しました。医療者向けであっても、一定の「わかりやすさ」は必要だと思います。わかりやすさを重視した情報提供をサポートしている団体の協力を得ていくことも必要になってくるかと感じました。
- ・ 知っておきたい医療スタッフの語るエピソードの内容について、文字も小さいですし、取捨選択しても良いのではないかと感じました。

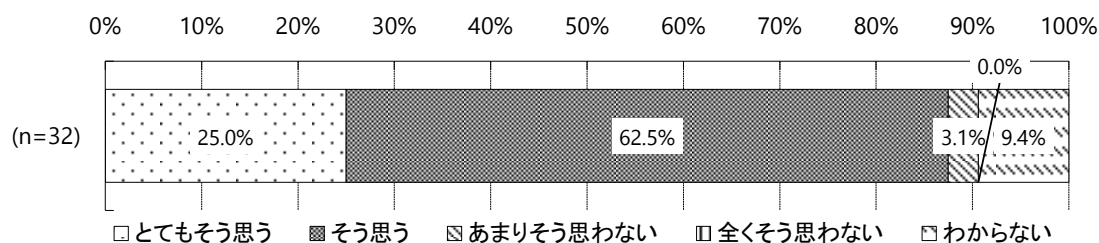
（その他）

- ・ 当事者への対応と、介助者への対応は異なる場合があるので、誰向けのものかもっとわかりやすくした方がよいと思う。
- ・ 追加・修正ではないですが、「知的障害のある方への配慮と工夫」で、「やむを得ない身体抑制は最低限にしましょう」と明記され、ポイントを書かれているのが、とても共感できました。私は日頃、施設向けに虐待防止・身体拘束等適正化の研修をしています。時々出る質問に、医療機関でのごことがあります。同行した支援者（施設職員やヘルパー）に、本人の身体を抑えておくよう、医師や看護師の方から指示があり、どこまで指示に従ったら良いのか悩むといった意見です。もっとも、日頃関わりのある支援者が、本人に丁寧に説明して、最低限の抑え方（例：ワクチン接種の時など）をすることの意味を語られる場合もありますが、中には抑えた結果、事故等につながった例もあり、悩ましい課題の一つです。このあたりも、いずれ整理されると良いなと思います。

5) 成果報告で紹介をしたフォーマット（案）は、役に立ちそうな内容だと思うか

「そう思う」の割合が最も高く 62.5%である。次いで、「とてもそう思う（25.0%）」、「わからない（9.4%）」である。

図表 6 成果報告で紹介をしたフォーマット（案）は、役に立ちそうな内容だと思うか



6) フォーマット（案）について追加・修正した方がよいこと

フォーマット（案）について追加・修正した方がよいことを自由記述式で尋ねた。主な回答は以下のとおり。

図表 7 フォーマット（案）について追加・修正した方がよいこと（自由記述式）

（活用目的、記載する情報の内容・量）

- ・ これまでこうしたツール、紙面、媒体があまり無かったのだと思いますが、一方で、医療者が作成する書類のイメージがぬぐえないと感じます。視覚障害者用のフォーマットも必要だと思います。また、冒頭に、どうやって使ってほしいかを追記してはどうかと思います。
- ・ コミュニケーションの工夫がわかれば配慮しやすいのはあるとおもいますが、手帳などは提示されているのでここになくてもいいかもしれません。本人やご家族はたくさん書き込むと思いますが、急性期の先生たちは最低限か、選択肢でないともないと思います。

（手帳の記載、わかりやすさ）

- ・ 療育手帳については、自治体によって等級の区分や表し方が異なりますし、療育手帳に詳しくない人には等級だけでは伝わらない恐れもあるかと思いました（特に「A」「B」といった記号の地域ですと、程度がわかりづらいかもしれません）。また、全体的に表現が硬く、患者側が書くにはとっつきにくい印象です。軽度知的障害者が自分で記入する可能性も踏まえて、もう少しわかりやすくしたほうがよいかと思いました。
- ・ 障害者手帳等の所持（種類・等級）は丸をつける想定でしょうか？記載に悩まない工夫が必要かと思います。②配慮事項（診察時にお願いしたいことや協力してほしいこと、スムーズな診療のための工夫を簡潔に記載）→例示があると書きやすいかもしれません。
- ・ 療育手帳についてですが、東京都では愛の手帳、名古屋市では愛護手帳と呼ばれていますので、「療育手帳等」とされた方が分かり易いのかなと思いました。「医学的な禁忌事項」の意味が、少し分かりにくいので、例を書いて頂くと良いのかなと思いました。自分の場合は、ある特定の薬で薬疹が出るので、障害当事者ではないですが、いつも受診の際に伝えています。

（その他）

- ・ お薬手帳のように、所持しやすいサイズであればよいように思いました。
- ・ この情報提供フォーマットが普及し、障害のある方々が受診時に自分で渡すのが普通になると、受け入れる医療機関側もそれに慣れていくだろうなと思いました。急性期医療機関側が「めったに障害者はいない」と思っている場合が多いのですが、受診しづらいから、していなかったり、本当は配慮が必要なニーズがあってもそれに

気づかずにいるだけではないか、と思うこともしばしばです。

7) その他の意見・感想

その他の意見・感想を自由記述式で尋ねた。主な回答は以下のとおり。

図表 8 その他の意見・感想（自由記述式）

- ・ 広く利用されるよう発信されると良いと思う。
- ・ 勉強になりました。似たような経験があったので参考になりました。
- ・ 来年の夏ごろに研究結果をアップロードされれば、情報提供いただけますと大変ありがたいです。
- ・ 素晴らしい研究が進んでいることを知りました。次の報告会の参加を楽しみにしております。
- ・ 大変勉強になりました。入退院支援を行っています。情報共有シートの運用の仕方には予期課題を感じています。既存の厚労省が公開している入院時情報提供書においても知っている在宅関係者がまだまだ少ないです。どのように広め、活用いただくか課題であると感じました。
- ・ 高次脳の方の権利擁護とスタッフへのハラスメントの境でいつも悩ましい思いをしています。基調講演大変勉強になりました。
- ・ 障害児の個別支援、失語症の方への支援に関わっています。今回、報告された情報フォーマット、対応マニュアルが活用されることを望みます。今回の報告会に参加させていただき、現状を知ることができました。ありがとうございました。
- ・ 障害のある人たちの暮らしをよりよくし、権利の保障にも大切な研究・実践をされていることに、敬意を表します。ヒアリング以外でも、当事者に近い立場の人たちが積極的に関与していくと、よりよい取り組みになるかと思いました（すでにされていたら申し訳ございません）。「私たちのことを私たちとともに決める」が実現され、今回の取り組みが社会に広く届くことを願います。
- ・ 石渡先生とは、お会いしてから、30 数年くらいたちますが、変わらず分かり易いお話しで良かったです。ただ、一点、気になったのは「合理的配慮：障害のある人が笑顔になる関わり（石渡）」という箇所です。一般的には、分かり易い表現と思いますが、すみません、ひっかかりを覚えました。その意味は3点あります。①当たり前の事として合理的配慮がされたからといって、「笑顔にならないといけなのか？」との誤解を招く恐れがあること（石渡先生の趣旨はそうではないですが）。②そもそも笑顔を出すことが困難な方もいること。③メニューを読んでもらうという合理的配慮をもらった結果、そのこと自体は良いのですが、笑顔になれない内容（例：メニューとしては読み上げられても、自分の好きなメニューがその日は売り切れと言われた等）の場合もあること。つまり、合理的配慮とは、自分にとって嫌な情報でも良い情報でも、把握するために、行ってもらうのですから、中には笑顔につながらない場合もあるという事です。細かい事で恐縮ですが、感想です。石渡先生にお伝え頂いても、結構です。お話し全体は、とても良かったです。
- ・ 領域が異なるとなかなか立ち踏み込めないことがありますが、フォーマットを通じて双方の理解が深まるのではないかと感じます。
- ・ 成果報告で発表いただいた内容が医療現場の実状だと思われますので、来年度、フォーマットを受け取る側の医療機関の現実的な意見などが興味深いです。
- ・ この報告会を開催していただいたおかげでどのような問題点があるのかまたどのように対応すればよいのかを考える良い機会になったと思います。個別に対応を工夫する必要があるケースも出てくると思いますので引き続き事例紹介も含め勉強できる機会を設けていただけると嬉しいです。

8) 回答者の職種等

「リハビリテーション専門職」の割合が最も高く 37.5%である。次いで、「医師・歯科医師（18.8%）」、「障害福祉関係職（15.6%）」である。

図表 9 回答者の職種等（複数回答）

